

# 生重さんとの意見交換会について

6月11日（金）午後3時から大分大学で、教育コーディネーターとして活躍されている東京都杉並区の生重さん（NPO団体 スクール・アドバイス・ネットワーク理事長）と意見交換会を行いました。

急な企画にもかかわらず、多くのメンバー（園部代表・安部さん・藤田さん・成田さん・山村さん・瀧野さん・梅野さん、谷口さん・山上さんとお友達）が出席して熱心な意見交換会になりました。

生重さんの名刺には、文部科学省の中央教育審議会・生涯学習分科会委員、内閣府の地域活性化伝道師、経済産業省の中核コーディネーター事業・統括マネージャー、東京都の生涯学習審議会委員・社会教育委員、都立高等学校教育支援コーディネーター、杉並区の学校教育チーフコーディネーターとありますが、本業は、NPO法人 スクール・アドバイス・ネットワークの理事長だそうです。

生重さんの子どもさんが通っていた中学校の荒廃をきっかけに、学校と連携したユニークなPTA活動の展開があり、そのことから杉並区教育委員会との間柄ができる中で、本業であるNPO法人 スクール・アドバイス・ネットワークの周りにさまざまな人が集まりはじめ、小学校の英語授業に「1年生から歌って踊る」という新しい英語教育プログラムなどを作ったそうです。この時のネットワークの経験と蓄積が、東京23区で進められている「プラットフォームづくり」や「教育コーディネーターのネットワーク化」、「チーフコーディネーターの配置」などに役立っているようです。

お話の中では、国や県や市町村に頼らない財政（ご本人は「金回りの仕組み」と表現）の確立と、決して一人ではできないことを強調されていました。

そして印象深かったことは、子育てに孤独感がある世情やコミュニティの崩壊に危機感を持っていらっしゃることでした。国内各地を飛び回り、講演や与えられた役割の仕掛け作りに精力的に取り組んでいらっしゃる理由が分かったようでした。

また、参加者からの質問にも気さくに答えていただきました。「メンバーの集まりになかなか出席

できない人に対して、何かいい対策はないか」という瀧野さんの質問には、「私は、自分がだいたい完璧ではないので、うふふっ。それより、とにかく楽しくなくてはだめでしょう。完璧さはあまり求めませんが、こんなことやりたいけど手伝える人いませんかとか、私はこんなことができますよとか、あんなことできる人を知っていますよとか、これがネットワークで大事なことはないでしょうか」と。「チーフコーディネーター役のコツは何でしょうか」



生重さんを紹介しながら会を進行する中川教授

という山上さんの質問には、「日頃から周りを見ること、情報をキャッチするアンテナを高くすることでしょう」と。最後に「先生の実践で子どもにどんな変化があったのでしょうか」という山村さんの質問には、「地域のお年寄りの戦争の話を聞いて、今まで書けなかった作文が書けるようになった子どもの実例。そして、逆にそれを聞いたお年寄り本人にも元気が出たこと」など分かりやすい答えに、それぞれヒントとパワーをいただいた意見交換会でした。（文責：谷口事務局長）



中川先生とは8年のお付き合いですと  
言う生重さん